

# はるボラフレンズの歩み



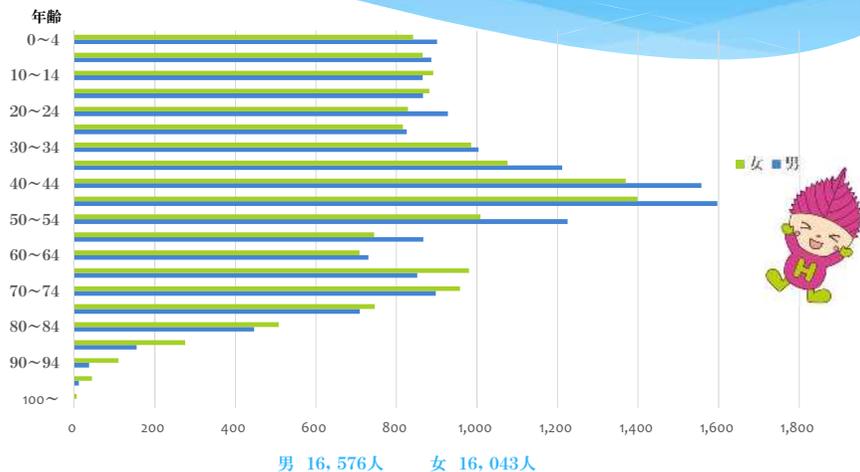
大治町学校支援地域本部

# 大治町について



- ◎名古屋市の西隣(庄内川西)
- ◎人口 約3.1万人
- ◎学校規模  
大治中学校(生徒数:974名)  
大治小学校(児童数:836名)  
大治南小学校(児童数:660名)  
大治西小学校(児童数:609名)
- ◎他地域から流入人口の増加
- ◎地域のつながりの希薄化

# 大治町の人口 32,619人



# 日本最古の眼科診療発祥の地



明眼院

国の登録有形文化財  
旧多宝塔  
(中には、大日如来坐像)

## 702年創建の自性院 ～佐屋路の面影～



5

## 学校支援地域本部(はるボラフレンズ)のねらい

- ◎ 学校の教育活動を支援するため、地域住民の学校支援ボランティアへの参加を進める。
- ◎ 学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもたちを育てる体制を整える。



地域の教育力を高める  
人と人のつながりを密に



6

## はるボラフレンズ発足まで

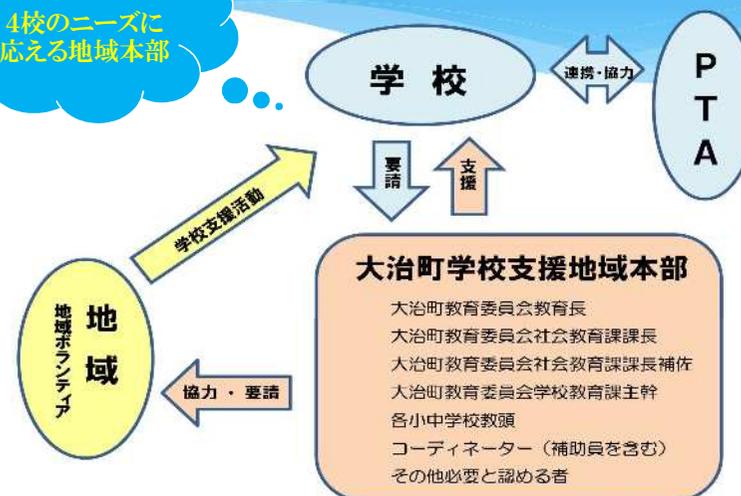
- ◎ 先進地視察(H25)  
要綱づくり、名称の工夫
- ◎ 町教育委員会がコーディネーターを配置(H26)
  - ・ 社会教育課に待機
  - ・ 教員OB+地元住民の2名 (有給)
- ◎ はるボラフレンズの組織づくり



7

## はるボラフレンズ発足 ～大治町の独自性～

4校のニーズに応える地域本部



8

## ◎ 学校支援ボランティアの募集

- コーディネーターの友人&知人
- 既存の団体の協力  
〈婦人会・ONBの会(登下校の見守り)・PTA〉
- H26 76名のボランティアでスタート

※ 年齢は、主として、60代と40代



9

## ◎ 学校との連絡方法の確立



- 教頭を窓口として、月末に翌月のボランティア要請を提出
- 子どもとの活動支援  
(授業支援、引率補助、行事補助など)
- 参加ボランティアの名簿を事前に学校へ送付
- 急遽の計画変更時は学校からボランティアへ連絡
- 活動中のけが等についてはボランティア保険で対応

10

## 調理や裁縫の学習 ～ボランティアさんも予習をして～



教員と息を合わせて！！

11

## 学校行事では、裏方を支援



運動会の時の駐輪場の整理  
校外学習の引率 大助かりです



12

## できることは、楽しみなこと

中3生の学習(SSC)  
～主に、日曜日に実施～

日本語の学習  
～ともに活動して～

13

## はるボラフレンズ活動の実際

### ◎活動の種類

- ・校外学習引率補助
- ・家庭科実習補助
- ・書写授業補助
- ・日本語指導
- ・学習支援
- ・地域未来塾
- ・特別授業講師
- ・学校行事補助

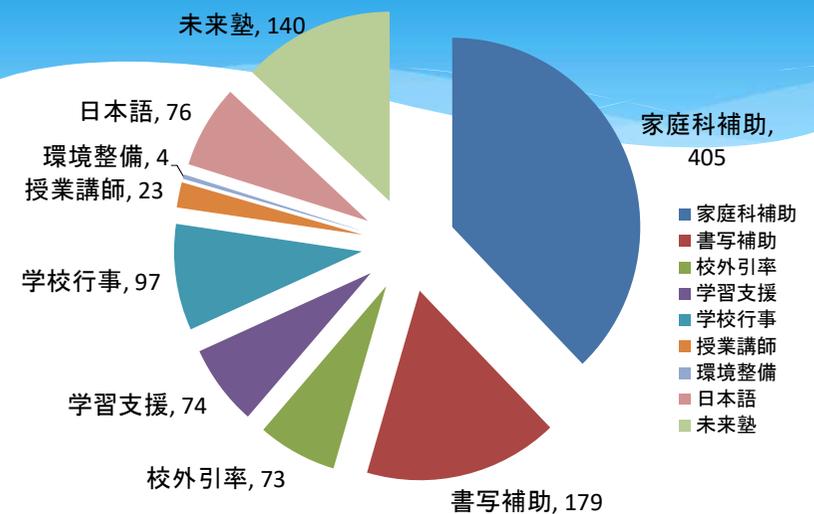
14

### ◎ 活動日数及び延べ人数

年度	27年度	28年度	29年度	30年度
参加延べ人数(人)	546	1101	1093	1071
活動日数(日)	113	286	254	303

15

### \* ◎種類別人数(平成30年度)



16

## はるボラが定着した要因 ①

### ◎ 行政の具体的な支援

- ・はるボラフレンズの活動へ向けての予算化  
コーディネーターを臨時雇用職員として採用  
(教員OB・地域住民)



コーディネーターが安心して活動できる  
日常的に学校・ボランティアに連絡できる

17

## はるボラが定着した要因 ②

- ### ◎ 社会教育課(公民館内)に、 学校支援地域本部を設置



コーディネーターの待機場所  
電話並びにコンピュータメール配信ができる

18

## はるボラが定着した要因 ③

- ### ◎ 様々な人が行き交い、様々な文化の 交流する公民館が活動拠点



ボランティアに参加したい人に  
出会うチャンスが多い

19

## はるボラが定着した要因 ④

- ### ◎ 既存の団体が支援 (ONBの会・婦人会・PTA等)

20

## はるボラが定着した要因 ⑤

### ◎ 学校支援に限定した活動

- ・ 子どもとの活動が中心のボランティア活動



ボランティアが楽しい活動  
参加しやすい活動  
やりがいを感じる活動

中止した活動も！



21

## はるボラが定着した要因 ⑥

### ◎ 学校の協力

- ・ 管理職が職員に はるボラフレンズの活動意義を伝え、積極的な活用を呼びかけ
- ・ 教頭を窓口としてコーディネーターとの連携を密にした。
- ・ 子ども、職員からの感謝の意思表示



ボランティア活動要請の増加  
ボランティア活動の広がり



22

## はるボラフレンズ成果 ①

- ・ ボランティアと子どもたちのふれあう機会ができ、人と人のつながりが生まれた。  
→ 子どもと地域の人・教師と地域の人の関係が密に

23

## はるボラフレンズ成果 ②

- ・ ボランティアが学校の教育活動に参加することで、学校への理解が深まった。  
→ 学校の忙しさ、教師の熱意を理解



24

## はるボラフレンズ成果 ③

- ・ ボランティアの活動を通して、学校が地域に開かれてきた。
- 学校がはるボラへの相談増加 『困ったときのはるボラ』  
(外国の子どもへの対応・特別授業の講師 等)



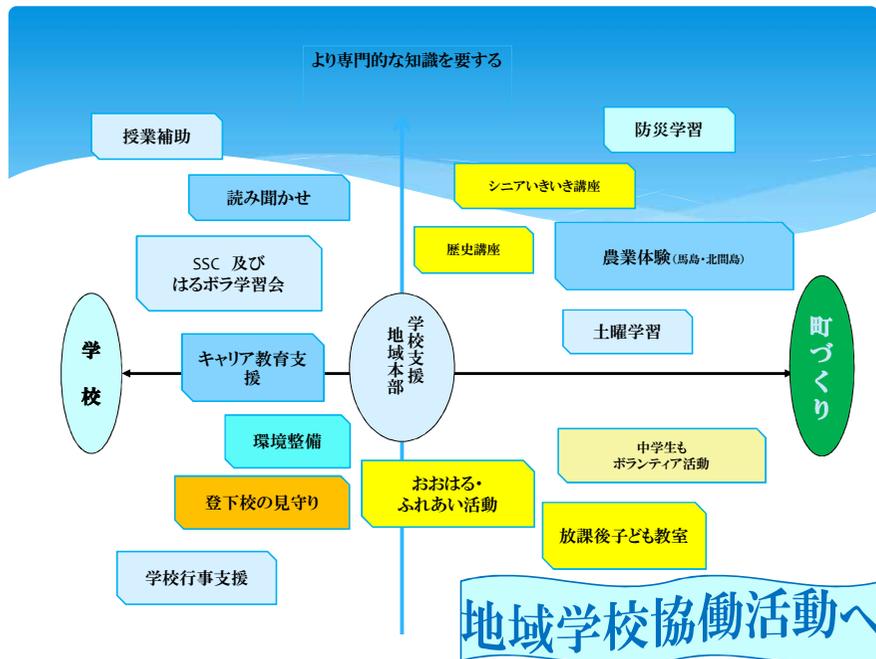
25

## はるボラフレンズ成果 ④

- ・ 地域の人にボランティア意識が高まった。
- はるボラフレンズに参加する人の増加  
『私たちでもやれる』



26



27

## 学校支援から協働活動へ

- ◎ 既存のボランティア団体との連携  
はるボラ・婦人会・登下校の見守り・読みきかせサークル・  
放課後教室運営サークル・JA・町内企業などとの連携の構築  
平成30年度  
各団体との連絡会の実施 → 各団体の活動の内容の紹介  
令和元年度  
テーマ別に分かれワークショップの開催  
→ 「子供たちのためにやれそうなこと・やってみたいこと」  
を話し合う



大治町独自のネットワークの構築

28